



皆様の幸福を願って書いております

二〇二二年二月号 日本家系調査会

今月は・・・

「二月如月(きさらぎ)」

節分

節分(せつぶん、または、せちぶん)は、各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のこと。節分とは「季節を分ける」ことをも意味している。江戸時代以降は特に立春(毎年二月四日ごろ)の前日を指す場合が多い。

四柱推命では節分後、新しい年の運に変わるといわれています。

初午

初午(はつうま)は、二月の最初の午の日。稲荷社の縁日で、雑節の一つとすることがある。栃木県ではしもつかれを食べる風習がある。



初午は、その年の豊作祈願が原型で、それに稲荷信仰が結びついたものである。四月初めの巳の日の菜の花祭りの夜と初午のいずれかに雨が降らないと火に祟られるとか、初午の早い年は火事が多いとかいう俗信もある。また、初午の日に、消防団員が各家庭を回って火の用心を呼びかけ、火の用心のお札を配る習慣がある地方もある。

涅槃会

涅槃会(ねはんえ)は、涅槃講や涅槃忌とも称し、陰暦二月十五日、釈迦の入滅(にゆうめつ)の日に、日本や中国などで勤修される、釈迦の遺徳追慕と報恩のための法要である。

涅槃とは、ニルヴァーナの訳語であり、迷妄のなくなった心の境地を指す言葉であったが、この場合には、釈迦が亡くなったという意味で用いられている。

実際には、釈尊が入滅した月日は不明であり、南伝仏教ではヴァイシャーク月の満月の日(ウエーサーカ祭)と定められている。ヴァイシャーク月が、インドの暦では第二の月であることから、中国で二月十五日と定めたものである。

特集・自分のミッションに誇りを

震災後思うこと

三月十一日より十ヶ月を越えました。が、思えば大変な一年でした。震災で

お亡くなりになられた方々に心からご冥福をお祈り申し上げます。

当初は被災地からは遠い群馬県でもガソリンが来ない、計画停電で仕事にならないなどの状況が続きました。

私自身を振り返っても、ニュースなどのテレビ番組を見ているといつの間にか涙が流れてきて、気が落ち込み、二ヶ月ほど軽いうつ状態になっていたほどです。何かをしてあげなければならぬと思います、義援金を送ったりもしましたが、自分の無力さ、なさけなさに力を落としたこともあります。

現実には風評被害や放射能汚染問題、補償問題などの課題を残していますが、三次災害ともいわれる、これから起こると予想される問題もあり、将来を悲観しての自殺も増えるだろうといわれています。経済評論家や知識人はあまり希望的な予想をしていません。



変えられること・変えられないこと

たしかに現実を見るとそうなのですが、震災以前も同様なことを言っていた評論家は大勢いました。

「この業界は未来が無い」「困窮時代が来る」など、悲観的予想はいつの時代もありました。そのような発言を聞き、その言葉の側に付いた人も多かったのです。

しかし、世の中には変えられないものと、変えられるものがあります。起こってしまったこと、過去と他人は変えられません。変えられないものと思

い悩んでいても仕方が無いです。会社が無くなったとか、誰かが死んでいなくなっただとか・・・。

変えられるのは未来と自分だけです。これからどうするかだけです。ネガティブ思考になり、被災した人たちと一緒に全体が沈んでしまったら日本の未来はありません。



今の自分に何ができるか？と考えるのです。震災で犠牲になり無くなった人々は何を語られるでしょうか？それは、「自分たちの家族を何とかしてください。」「これからの日本を何とかしてください。」「間違いなく言われるはずですよ。決して一緒に悲しん欲しいとは言わないはずですよ。」

被災してしまった人たち、犠牲になつた人たちの分まで、元気になつてがんばるしかありません。否定的になつたら終わりです。

そこで、日本を復興させるために何ができるか？・・・

自分に与えられたミッション

自分のできることから、やっている仕事、ボランティア、なんでもよいですが、そこから出発しましょう。自分が今、居る場所。それが神様から与えられたミッションです。歴史的な因縁があつて今の自分があるのです。

会社を持つている人が会社を辞めてボランティアをしても、果たしてそれが、日本全体にとってプラスなのかという事です。自己満足で終わるでしょう。そうであるならば、今の会社の売り上げを二倍、三倍にして納税で貢献したら良い訳です。(もちろん、出した利益から義援金を送るのも良いことです。)



仕事への頑張りが被災者を救うのだと思うことです。そうすれば何の良心の呵責もなく力と喜びが出ます。誰かの役に立っているという実感ほど力になるものはありません。

日本や社会を良くし貢献するために今の仕事をしている。そのために仕事をやっているし、生きているのだ！だから、無限に発展する必要がある。小さな次元で満足するのは悪だ！改善、見直し、投入を惜しまない。このような気概が今の日本にこそ必要なのだ！あせつても仕方が無い。大きなことをしようと思つても、現在の延長に未来はある。今、やれることをしっかりとやる。ジャパネットタカタの社長もコマースシャルで「今の一生懸命の先に未来がある。」と言われています。

悔いの残らない人生を歩みたいものです。いつ死んでも悔いの残らない歩みを楽しみましょう。

自分を変えられないことに思い煩うのは止め、変えられることに集中しましょう。変えられるのは未来と自分だけです。日本を元気にするために自分はいる。出会う人すべてに元氣、希望、夢を贈ろう！

- 個別カウンセリング受け付けています。(料金五千元)
- 男澤恵一・家系と先祖のBLOG



〒370-0852 群馬県高崎市巾着町2-4-12
クリエーション(日本家系調査会)
中村誠一宛
電話 FAX 027-353-5847 090-2568-3645
メールは、
nakanakamuramurata@brown.plala.or.jp まで